

## 第17回

# 共同意思決定に参画し 患者の幸福を実現しよう

医療者と患者が治療を選択する際に重点を置く基準には往々にしてギャップがある。

古い医療では、パターンリズムにより医療者が一方的に治療方針の検討や決定をしていた<sup>[1]</sup>。たとえば、医師が「がんなので、手術が適切です。同意書に署名してください」と患者に迫るばかりだったのだ。

これに対し、最近ではインフォームド・コンセント (IC) が浸透し、医療者から患者へ情報が示され、治療方針の検討や最終的な決定は患者 (家族ほか) に任せられている。だがICにおいても、医療者は難解な医療情報を提供するだけで「十分検討して手術するかを決めてください」と伝える傾向にあり、患者は何が最善なのかを理解できず、結果的に医療者の誘導の影響を受けているのが現状である。

しかし、仮に薬剤師が医師に進言し、医師が「がんのステージが進んでおり、もう手術はできない。この薬を使えば3ヵ月ほど寿命が延びるが、副作用がひどい」といったわかりやすい情報を患者に伝えたら、どうだろうか。患者は、苦しむような薬を飲まず、寿命が短くなっても愛する家族といっしょに平穏な日々を送るほうがwell-being (幸福) が高いと思うかもしれない。



患者と医療者では考え方に違いがあるかもしれないが、やはり、お互いの見解を理解したうえで最終的に患者にとって最良の治療を選択し、well-beingを実現することが大切だ。そのために医療者は、個々の患者の病歴や検査結果にもとづいて、薬物療法や手術などの治療の選択肢に関するすべてのメリット・デメリットの情報を患者がわかる言葉で説明しなければならない。そして、治療方針を両者で決定することが、患者のwell-beingにつながる。

このように医療者と患者が協働し、情報を交換して、患者がもっとも幸せに感じられる最善の治療方針を決めることを共同意思決定 (Shared Decision Making : SDM) と呼ぶ<sup>[2, 3, 4]</sup> ([資料1])。

## 鍋島 俊隆

NPO 法人医薬品適正使用推進機構理事長 / 藤田医科大学客員教授 / 名古屋大学名誉教授 / ALI. Cuza 大学 (ルーマニア) 名誉教授



看護師が参画すると、SDMが円滑になるとの報告がある<sup>[5]</sup>。また、薬剤師が専門性を活かして積極的にSDMにかかわると、薬物療法に関する医師と患者の協働作業を円滑にできる<sup>[6]</sup>。

がん以外にも、精神疾患、循環器疾患、慢性疾患、高齢者の治療・ケア、腎代替療法などでは、唯一最善で有効な治療法は存在しない。もし、薬剤師が、これらの疾患の薬物療法のメリット・デメリットを患者が理解できるように説明すれば、患者と医療者がどの薬物療法を選択するのかを納得して決められ、患者のwell-beingの達成の手助けができるだろう ([資料2])。

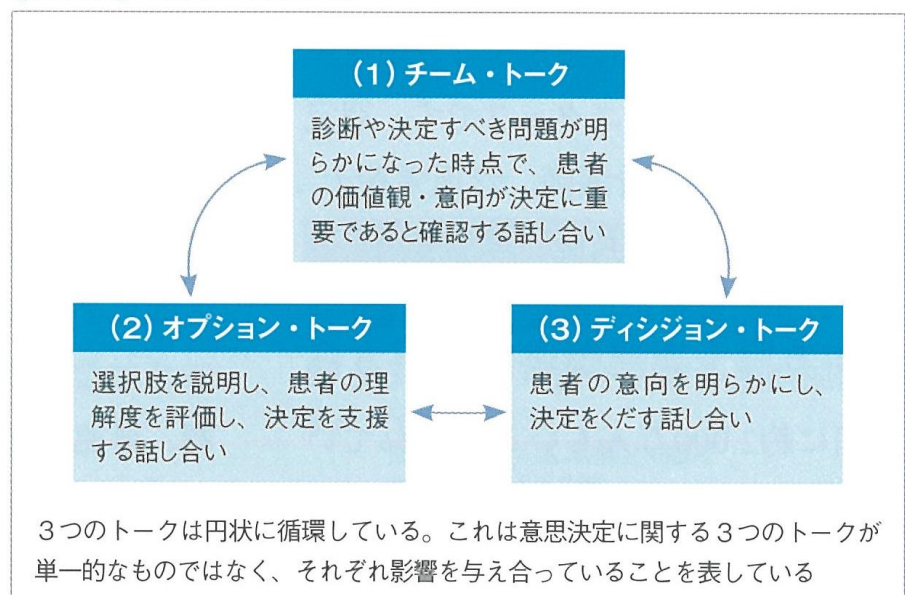
薬剤師業務にもAIの進出が急速である。しかし、患者の気持ちに寄り添い、患者の価値観に共感できるのは人間である薬剤師だ。がんばれ薬剤師!

### 【資料1】治療方針決定の3つのアプローチとその特徴

	パターンリズム	インフォームド・コンセント	SDM
治療情報の方向	医療者→患者	医療者→患者	医療者↔患者
価値観や生活情報の方向	医療者→患者	患者→医療者	医療者↔患者
治療方針の検討者	医療者のみ	患者 (家族ほか)	医療者と患者 (家族ほか)
最終的な治療方針の決定者	医療者	患者	医療者と患者

出典：中島俊：医学界新聞 (2021.5.24) より転載

### 【資料2】Three-talkモデル



出典：中島俊：医学界新聞 (2021.5.24) より転載

#### Profile なべしま・としたか

1973年大阪大学大学院薬学研究科博士課程単位取得退学。名古屋大学大学院医学系研究科教授、同大学医学部附属病院薬剤部部長 (併任)、名城大学大学院薬学研究科教授、名城大学比較認知科学研究所所長 (併任) などを経て、現職

[1] 石川ひろの：医療と社会 30: 77-89 (2020) / [2] 中島俊：医学界新聞 (2021.5.24) / [3] 小松康宏：https://amdd.jp/wp-content/uploads/2021/05/pdf\_20210304\_01.pdf / [4] 中山健夫：https://minds.jcqh.or.jp/docs/forum/170128/pdf/05.pdf / [5] Goto, Y et al. : PLoS One. 10;16(2):e0246518. doi: 10.1371/journal.pone.0246518. eCollection 2021 / [6] Kawaguchi, T et al., BMC Med. Inform. Decis. Mak. 13: 50 (2013)